

日本堆積学会 2011年長崎大会 プログラム

<日 時> 2011年12月17日(土)～26日(月)

17日(土)～18日(日):プレショートコース「水路製作および水理実験」

19日(月)～22日(木):ショートコース「オート層序学実験セミナー」

23日(金):個人講演(基調講演含む),総会議事,懇親会

24日(土):特別セッション,個人講演(基調・特別講演含む),

最優秀口頭・ポスター発表の表彰,堆積学トーク・トーク

25日(日)～26日(月):巡検「白亜系上部姫浦層群の海底扇状地堆積物」(1泊2日)

<会 場> 長崎大学文教キャンパス総合教育研究棟3階 他

<http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/access/bunkyo/index.html>

12月17日(土),18日(日)

<プレショートコース> 「水路製作および水理実験」

日時・場所:長崎大学環境科学部本館1階学生実験室A(環114室)

12/17(土) 10:00～17:00

12/18(日) 09:00～16:00

休日のため建物が施錠されていますので,入館方法などを参加予定者へ別途伝達します.

講師:武藤鉄司氏(長崎大学)

12月19日(月)～22日(木)

<ショートコース> 「オート層序学実験セミナー」

日時・場所:長崎大学環境科学部本館1階地球科学共同実験室1(環113室)

12/19(月) 10:00～17:00

12/20(火)～21(水) 09:00～17:00

12/22(木) 09:00～16:00

講師:武藤鉄司氏(長崎大学)

12月23日(金・祝) 会場:長崎大学文教キャンパス総合教育研究棟3階
(口頭講演302室,ポスター展示3階ロビー)

総合教育研究棟への入館は08:00から可能です

8:40-8:45 会長挨拶 伊藤 慎

<口頭発表の部>

【座長:山下翔大】

01 8:45-9:00 超大陸パンゲアの湿潤-乾燥サイクルに起因した超海洋パンサラッサ層状チャートの堆積リズム

池田昌之・多田隆治・Paul E. Olsen

02 9:00-9:15 モンゴルの白亜系湖成層中に見られる堆積リズムの起源:白亜紀海洋無酸素事変期の陸域環境変動解明に向けて

長谷川 精・安藤寿男・長谷川 卓・太田 亨・山本正伸・長谷部徳子・
村田崇行・Li Gang・Ichinnorov Niiden

【座長:松本 弾】

03 9:15-9:30 モンゴル南東部のジュラ系-白亜系湖成頁岩層から復元する海洋無酸素事変期の陸域古環境

安藤寿男・長谷川 精・長谷川 卓・太田 亨・山本正伸・
長谷部徳子・村田崇行・Li Gang・Ichinnorov Niiden

04 9:30-9:45 砕屑性鉱物年代から推定される天草上島・姫浦層群の後背地

堤 之恭・小松俊文・三宅優佳・荒巻美紀・横山一己

05 9:45-10:00 海退期の段丘形成と海進期の波食による地形変化:大阪湾北部の上部更新統~完新統の解析

伊藤有加・小口 高・増田富士雄

休憩(10:00-10:10)

【座長:長谷川 精】

06 10:10-10:25 反射法音波探査による沖縄トラフ地下構造;奄美大島北西海域

佐藤智之・荒井晃作・井上卓彦

07 10:25-10:40 デルタ平野形状の起源と発達

田村 亨・斎藤文紀・松本 弾・Nguyen Van Lap・
Ta Thi Kim Oanh・Mark D. Bateman・山下翔大

08 10:40-10:55 海底メタンハイドレートのパターン形成

村岡道弘・長島和茂

09 10:55-11:10 中周期(4秒・6秒)複合流ベッドフォームの形態と堆積構造

横川美和・関口智寛・高川智博・Mauricio M. Perillo
Marcelo H. Garcia・Jim Best・Francisco Pedocchi

【座長：武藤鉄司】

11:10-11:50 基調講演： 地形進化に関するアナログモデル実験

大内俊二

【座長：齋藤 有】

〈ポスター発表ショートトーク： 奇数番号の講演〉 11:50-12:10

1件あたりの講演は1分以内とします。

昼休み (12:10-13:00)

<ポスター発表の部> 13:00-14:00

12月23日(金) 8:00より掲示できます。12月24日(土) 16:30までに撤収をお願いします。

- P1 極細粒砂からなる複合流ベッドフォームに関する実験的研究
沼田慎吾・関口智寛・横川美和・高川智博
- P3 数値実験による多方向流条件での砂丘形態
勝木厚成
- P5 プレーンベッド形成時の軽量粒子の動態
高木洸希・北山忠弘・横川美和・泉 典洋
- P7 振動流の方向変化によるリップル遷移実験
関口智寛・新井賢造
- P9 火星の北極冠に見られるスパイラルトラフの形成過程についての実験的研究：予報
清水裕貴・横川美和・内藤健介・泉 典洋・山田朋人・Ralf Greve・白岩孝行
- P11 粒子形状の定量的記載と粒子分類への応用
松本 弾・成瀬 元
- P13 粒子配向から見た砂層の液状化・脱水の痕跡
宮田雄一郎・佐々木政和・山中 昂
- P15 カリフォルニア州ポイントロボスの始新統カーメル層に認められる粗粒海底谷埋積物の
トラクション構造
伊藤 慎・高岡進一・戸田数馬
- P17 細粒タービダイトの特徴と堆積機構：熊野沖，スマトラ沖及び別府湾の例から
池原 研・宇佐見和子・西田尚央・芦 寿一郎・入野智久・加 三千宣
- P19 房総半島下部更新統黄和田層最上部に挟在する海底地すべり堆積物の形成条件
福田佳代・鈴木政弘・伊藤 慎
- P21 デルタフォーセット層に記録される沖積河川サイクリックステップの層序痕跡
武藤鉄司・山岸千鶴・関口智寛・横川美和・Gary Parker
- P23 掛川層群宇刈層における有孔虫殻の粒度特性
中島光治・廣木義久・長谷川四郎

- P25 新潟平野沖の堆積物と音波探査記録からみた後期更新世-完新世の堆積環境変遷
天野敦子・井上卓彦・池原 研・入月俊明
- P27 Sedimentary facies analysis of the Miocene Siwalik Group, Karnali River section, Nepal Himalaya: Implications for paleoenvironment and paleoclimate reconstruction
Sigdel, A., Sakai, T., Ulak, P.D., Gajurel, A.P. and Upreti B.N.
- P29 潮汐流路およびそのあふれ出し堆積物が干潟堆積作用に与える影響：瀬戸内海西部、曾根干潟の例
中条武司・佐藤智之・山下翔大
- P31 現世干潟環境における堆積物輸送：粒度傾向モデルと観測の比較
山下翔大・成瀬 元・中条武司
- P33 ケニア北部中新統ナムルングレ層での高周期シーケンスの出現とその支配要因
酒井哲弥・実吉玄貴・沢田順弘
- P35 海水準変動に支配されないシーケンス層序-長野県上水内郡信濃町野尻湖の例-
井内美郎・中村祐貴・公文富士夫・近藤洋一・井上卓彦
- P37 泥炭の ^{14}C 年代測定に適した試料
北沢俊幸

<口頭発表の部>

【座長：成瀬 元】

14:00-14:40 **基調講演：** 境界不安定現象と地形形成

泉 典洋

【座長：村岡道弘】

010 14:40-14:55 非在来型炭化水素資源と堆積学：動向と今後の展開

高野 修

011 14:55-15:10 洪水流および崩壊起源重力流堆積物の層厚頻度分布の特徴：湖成蒜山原層の例

石原与四郎・佐々木泰典・弓 真由子・成瀬 元・齋藤めぐみ・林 辰弥

休憩 (15:10-15:20)

【座長：佐藤智之】

012 15:20-15:35 過去の地震によって生じた天然ダムとその堆積物：裾花川の河岸段丘堆積物の例

畠山幸司・伊藤拓馬

013 15:35-15:50 泥池化過程の小型海盆で生成するタービダイト層序パターン：水槽実験による解析

高橋宏樹・成瀬 元・武藤鉄司

014 15:50-16:05 “スランプもどき堆積物”とは何か？また、その意味することとは？
徳橋秀一

015 16:05-16:20 火星における土石流の流動特性
成瀬 元

016 16:20-16:35 Sr-Nd-Pb 同位体比と粒度から示唆される南海トラフ半遠洋性泥の供給源
変動
齋藤 有・石川剛志・谷水雅治・村山雅史・
IODP Expedition 333 次航海乗船研究者

休憩 (16:35-16:45)

<総会> 16:45-17:45

<懇親会> 18:30-21:00 (長崎大学文教キャンパス生協食堂2階)

12月24日(土)

<特別セッション> 堆積物記録を用いた古地震・津波の再来周期・規模推定の現状と諸問題

【座長：後藤和久 小松原純子】

S1 8:50-9:00 趣旨説明
後藤和久

S2 9:00-9:20 海底・湖底の地震性堆積物の認定と地震再来周期推定の現状と課題
池原 研

S3 9:20-9:40 地層中の津波堆積物の識別基準
小松原純子

S4 9:40-10:00 津波石研究の現状と課題
後藤和久

S5 10:00-10:20 【招待講演】津波による砂移動に関する数値シミュレーションの現状と課題
高橋智幸

S6 10:20-10:40 津波痕跡の化学的検出
箕浦幸治

S7 10:40-11:00 総合討論

休憩 (11:00-11:10)

<口頭発表の部>

【座長：伊藤有加】

017 11:10-11:25 東北地方太平洋沖地震の津波による千葉県九十九里海岸の変化
岡崎浩子・大木淳一

018 11:25-11:40 仙台平野における津波遡上距離と砂層分布限界の関係

阿部朋弥・後藤和久・菅原大助

【座長：天野敦子】

<ポスター発表ショートトーク： 偶数番号の講演> 11:40-12:00

1件あたりの講演は1分以内とします。

昼休み (12:00-13:00)

<ポスター発表の部> 13:00-14:00

12月23日(金)8:00より掲示できます。12月24日(土)16:30までに撤収をお願いします。

P2 炭素同位体と粒度の分析に見られる過去1000年の琵琶湖の堆積環境

奥村小織・福山 薫・柏谷健二

P4 中世以降の砂丘発達と冬季モンスーン変動

田村 亨・渡辺和明・山口直文・松本 弾・小玉芳敬・齋藤 有

P6 風成砂丘から見る火星とタイタンの大気循環システム

長谷川 精

P8 東京都府中市で掘削されたボーリングコア CRE-TAT-1 および CRE-TAT-2 の堆積相と堆積物物性

船引彩子・千葉 崇・納谷友規・植木岳雪・森谷慈宙・
斎藤広隆・濱本昌一郎・小松登志子・竹村貴人

P10 古植物堆積物から読み取る豪州ゴンドワナ P/T 境界の古環境

相原安津夫・鮎沢 潤

P12 西大阪平野における縄文時代晩期～古墳時代の沿岸環境の変遷

趙 哲済・中条武司

P14 海洋底生生物による堆積物改変～ドイツ下部ジュラ系黒色頁岩中の生痕化石を用いたアプローチ

泉 賢太郎

P16 デルタ前縁の差別的水深に見かけ上応答しないデルタの前進過程

武藤鉄司・苗 暉・Gary Parker

P18 琵琶湖埋没デルタの累重様式と気候変動

佐藤智之・壇原 徹・原口 強・林田 明・竹村恵二

P20 軟 X 線デジタル画像を用いた侵食形態の数値化と特徴化

弓 真由子・石原与四郎・小松原純子

P22 タービダイトーデブライトに含まれる泥岩偽礫の堆積実験

蟹井猛宏・宮田雄一郎

- P24 ガスハイドレート分解による未固結変形構造の再現実験
佐々木政和・宮田雄一郎
- P26 カルデラ火山周辺に発達する含巨礫緩傾斜扇状地と underfit river
片岡香子・宮縁育夫
- P28 山口県下関市梶栗浜遺跡におけるイベント堆積物
市原季彦・岡崎裕子・下山正一・大木公彦・濱崎真二
- P30 津波堆積物形成シミュレーションの試み
立石 良
- P32 雪氷期のラグーンにおける津波の作用と痕跡
仁科健二・石丸 聡・柴田智郎
- P34 三陸沖海底に広がる東北地方太平洋沖地震に伴う泥質堆積物：巨大津波は混濁流を引き起こすのか？
新井和乃・成瀬 元・泉 典洋・横川美和・三浦 亮・川村喜一郎・
辻 健・谷川 亘・金松敏也・藤倉克則・村山雅史・
YK11-E04 leg1 & YK11-E06 leg2 乗船研究者
- P36 岩手県陸前高田市における東北地方太平洋沖地震津波堆積物の特徴
成瀬 元・山下翔大・新井和乃・高橋宏樹・松本 弾・田中原吾
- P38 八戸市大須賀海岸の津波堆積物
鎌田耕太郎

<口頭発表の部>

【座長：伊藤 慎】

14:00-14:40 特別講演： 堆積地質学への思いと期待

立石雅昭

【座長：池田昌之】

019 14:40-14:55 巨礫の位置・大きさから分かる津波の挙動と陸上礫質津波堆積物の関係

山田昌樹・藤野滋弘・後藤和久

020 14:55-15:10 九州地域における津波と津波堆積物

市原季彦

休憩 (15:10-15:25)

【座長：船引彩子】

021 15:25-15:40 平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震により堆積したタービダイトの特徴

池原 研・宇佐見和子・ロバート ジェンキンズ・
芦 寿一郎・入野智久・渡辺 豊・氏家 崇

022 15:40-15:55 東日本大震災の津波による被災とそれからの復興に関する堆積学的問題
—地形的条件による津波と津波流の違いに着目して—

志岐常正・池田 碩・川辺孝幸・鈴木寿志・橘 徹・三上禎次

023 15:55-16:10 ちきゅうの近況について

久保雄介

休憩 (16:10-16:15)

<事務連絡> 16:15-16:25

<最優秀口頭発表賞ならびに最優秀ポスター賞の発表と授賞式> 16:25-16:45

休憩 (16:45-17:00)

<堆積学トーク・トーク> 17:00-19:00 「災害と堆積学：堆積学のできること・すべきこと」

会場：総合教育研究棟 302 号室

注意事項

<口頭発表>

*口頭発表は発表 12 分，質疑応答 3 分です。発表時間を厳守して下さい。

*口頭講演は液晶プロジェクターの使用を標準とします。ただし，OHP が必要な方がおられる場合は用意いたしますので，その旨を必ず**12月9日までに**申し込みアドレス宛にお知らせ下さい。会場側でパソコン(Windows, Macintosh)を1台ずつ用意します。Windows にはパワーポイント 2007 が，Macintosh にはパワーポイント 2008 がインストールしてあります。口頭発表される方はファイルの入った CD もしくは USB メモリを持参下さい。なお，持参いただくメディアおよびファイルにつきましては，ウイルス対策ソフトの最新定義で事前にチェックを頂きますようお願い致します。ファイルは遅くとも講演前の休憩時間までに会場の PC に直接コピーしてください。心配な方はご自分のパソコンを持参ください。

<ポスター発表>

*ポスターは 23 日と 24 日の 2 日間に渡って掲示することができます。ポスター 1 件あたりの展示可能スペースは縦 170cm×横 80cm(縦長)です。ポスターには，必ずポスター番号を記入して下さい。はぎ取りなど重量物の展示を希望される方は，12 月 9 日までに申し込みアドレス宛にお知らせ下さい。

*ポスター発表のショートトークは 1 人 1 分以内でお願いします。液晶プロジェクターを使用して発表する場合，**使用するスライドはタイトルスライド以外に 1 枚でお願いします。**なお講演を円滑に進めるために，用意して頂いたスライドはあらかじめこちらで 1 つのファイルにとりまとめます。**12 月 16 日までに**講演の申し込みアドレス宛に，パワーポイントファイルを送付いただくようお願い致します。